

2021年6月23日(水)

① バブル (※参照:日経電子版)

⇒ 株式市場に流れ込むマネーが前代未聞の規模になっている。米調査会社 EPFR によると、世界の株式ファンドへの資金流入額は年初から足元までで 5600 億ドル(約 60 兆円)と、1~6 月として過去最高を記録。米 S&P500 種株価指数の割高感を示す「CAPE レシオ」は 37 倍台と、IT(情報技術)バブル期の 2000 年以來の高水準を示す

⇒ ハイイールド債の代表的な指数をみると、最終利回りは 4.5%とコロナ前の 5%台半ばを下回り、過去最低を記録した。市場では「リスクが過小評価されている」との指摘が出ている

⇒ 住宅市場にも資金が流入。米住宅価格を示す S&P コアロジック・ケース・シラー住宅価格指数は 3 月に前年同月比 13.2%上昇し、上昇率は約 15 年ぶりの大きさを記録した。不動産投資信託(REIT)市場にも資金が流入し、S&P 先進国 REIT 指数(配当込み)はコロナ前の高値を上回り過去最高を更新した

⇒ 「FRB は市場に悪影響を及ぼさないように緩和縮小に時間をかけているが、その間に市場の中で過剰なリスクテイクがさらに広がってしまうジレンマを抱えている」東短リサーチの加藤出社長

② 原油 (※参照:日経電子版)

⇒ WTI のオプション市場では先高観が表れている。権利行使価格 100 ドルのコールの建玉(未決済残高)が 18 日時点で 9 万 8 千枚程度と 5 月末比で 1 割増加。20 年末比では 3.6 倍に膨れている。原油価格が 100 ドルを超える可能性をみる市場参加者が増えていることを意味する

⇒ 前週の「FT コモディティー・グローバル・サミット」では、欧州の大手資源商社トラフィギュラやビトルなどの経営幹部が、原油価格が 100 ドルに到達する可能性があると指摘した

⇒ 足元で強気な見通しが広がるのは、需給が引き締まるとの見方が強まっているためだ。18 日の大統領選では市場の予想通り、反米保守強硬派のライシ司法府代表が勝利。米・イラン間の隔たりがあるなかで核合意の再交渉はいったん休止すると伝わった。イラン産原油の禁輸措置が早期に解除されて日量 100 万バレル以上が市場に出回り、世界的な供給不足を打ち消すとの観測は後退している

⇒ 米国のシェールオイルの生産回復も鈍いままだ。米石油サービス会社ベーカー・ヒューズによると、開発動向を示す掘削装置(リグ)の稼働数は 18 日時点で 373 基。油価上昇を受けて徐々に増えているものの、19 年末比ではまだ 45%少ない

⇒ 一方、新型コロナウイルスのワクチン普及により世界経済の正常化は徐々に進んでいる。特に米国では国内空港の保安検査所を通過した人数が 20 日に約 210 万人と、6 カ月前の 2 倍近い水準に回復。ガソリン需要も増え、原油在庫は減少している

③ 米ドル

⇒ 1ドル=110.60-70 円

⇒ 米 10 年国債利回りが 1.473%と低下したにも関わらずドルが強い

⇒ 近々3 月末の 110.96 円を突破するのではないのでしょうか

【米ドル:6 ヶ月】

